

1 出題の範囲

学習指導要領にもとづいて作成し、内容について偏ることがないようにしました。全商検定の形式を意識しつつも長野県の独自性を入れた問題にしてあります。

2 問題の程度

基本的な理解度を図るための問題作成を心掛けました。また、試験の時期が早いことも考慮し難易度を調整しました。普段より簿記学習を真面目におこなっていれば、ある程度の目標が達成できるという観点から作問してあります。

3 出題の意図

(1) 第1問

小切手についての図を入れるなど、実務における処理を意識した問題にしました。付随費用については、固定資産の購入のみに入れ、他については難易度を考え外しました。商品売買取引だけでなく、広い範囲の中から問題を作成し第2問と重複が無いように努めました。

(2) 第2問

仕訳の難易度を上げるのではなく、帳簿記入を基本と考えそのやり方について問うような問題としました。

(3) 第3問

伝票の起票のし方に重点を置き、そのやり方を問う問題にしました。

(4) 第4問

商品有高帳については、重要な帳簿であるという認識を持ちつつも第2問に入れると難易度が高くなってしまうため単独の問題としました。小問2については、簿記体系の基本である財産法と損益法の考え方を問うようにしました。

(5) 第5問

過去のものを考慮しつつ、最近出題していなかった精算表を出題しました。決算整理が5つとボリュームが多いですが、基本的な内容としてあります。

減価償却については、実施時期を踏まえ計算式を入れてあります。勘定の締め切りについても出題し、決算手続き全体の範囲からの出題となっています。